

〈小学校国語〉

自分の考えや気持ちを適切に表現する力を育てる学習指導

—「読むこと」と「書くこと」を関連づけた単元構成の工夫と生活科との関連指導を通して—

うるま市立城前小学校 真栄田 敏 子

I テーマ設定の理由

学習指導要領では、生きる力を育むことを目指し、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うため、言語活動を充実することとしている。

また、国語科の目標には、言語の果たす役割を踏まえ「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。」と示され、互いの立場を尊重しながら、自分の考えや気持ちを適切に表現し伝え合う力を育てることを求めている。

しかし、平成 22 年度全国学力・学習状況調査の結果から、「国語 B」の自分の考えや感想を明確に記述すること等の「活用」に関する記述式問題を中心に課題が見られた。同調査において、平均正答率全国 77.8%・県平均の 71.4%に対して、本校では 69.3%であった。また、平成 22 年度「沖縄県学力到達度調査」でも「国語 B」に関しては、55.9%と低く、国語に関する意識調査で「日記」「意見文」「感想文」等を書くことに消極的な傾向が見られた。

これまでの私の授業をふり返ると、児童は、書きたいことはあるのに「何から書くか分からない」「どのように書けばよいか分からない」等の声があり、文章の構成や記述の仕方等の言語能力の定着の点で課題が見られた。その原因として、表現に生かすという目的をもって文章を読んだり、学んだことを活用して書くという関連指導が弱かったことが考えられる。

そこで本研究では、表現するために説明的文章を読み、そこで学んだことを活用して書くという「読むこと」と「書くこと」の関連指導の工夫として単元の構成を考えた。まず、説明文の単元を 4 つの段階に分け、第 1 段階で相手や目的意識を持って学習課題をつかむ。第 2 段階で説明的文章の内容や構造・特徴等内容を読み取りながら学級で同じテーマの作文を書き、互いの表現の仕方や方法を交流する。第 3 段階で学んだことを活用して自分のテーマの作文を書く。第 4 段階で保護者や友だちと作品や感想について伝え合う等、交流活動を設定する。このような説明的文章の指導において、児童が表現仕方や方法を学び、学んだことを生かして自分の考えたことや気持ちを適切に書いて伝え合うという単元構成を工夫した。また、生活科との関連を図り、国語科で学んだ言語能力を活用する場を設定し、伝え合う楽しさや喜びを味わうとともに、実生活で生きて働く国語の力として言語能力を活用し、その定着を図っていくことが重要であると考えた。

このような、「読むこと」と「書くこと」を関連づけた指導の工夫と生活科との関連指導を通して、自分の考えや気持ちを適切に表現する力を育てることができるであろうと考え、本研究テーマを設定した。

II 研究目標

「読むこと」と「書くこと」を関連づけた単元構成の工夫と生活科との関連指導を通して、自分の考えや気持ちを適切に表現する力を育てる。

III 研究仮説

1 基本仮説

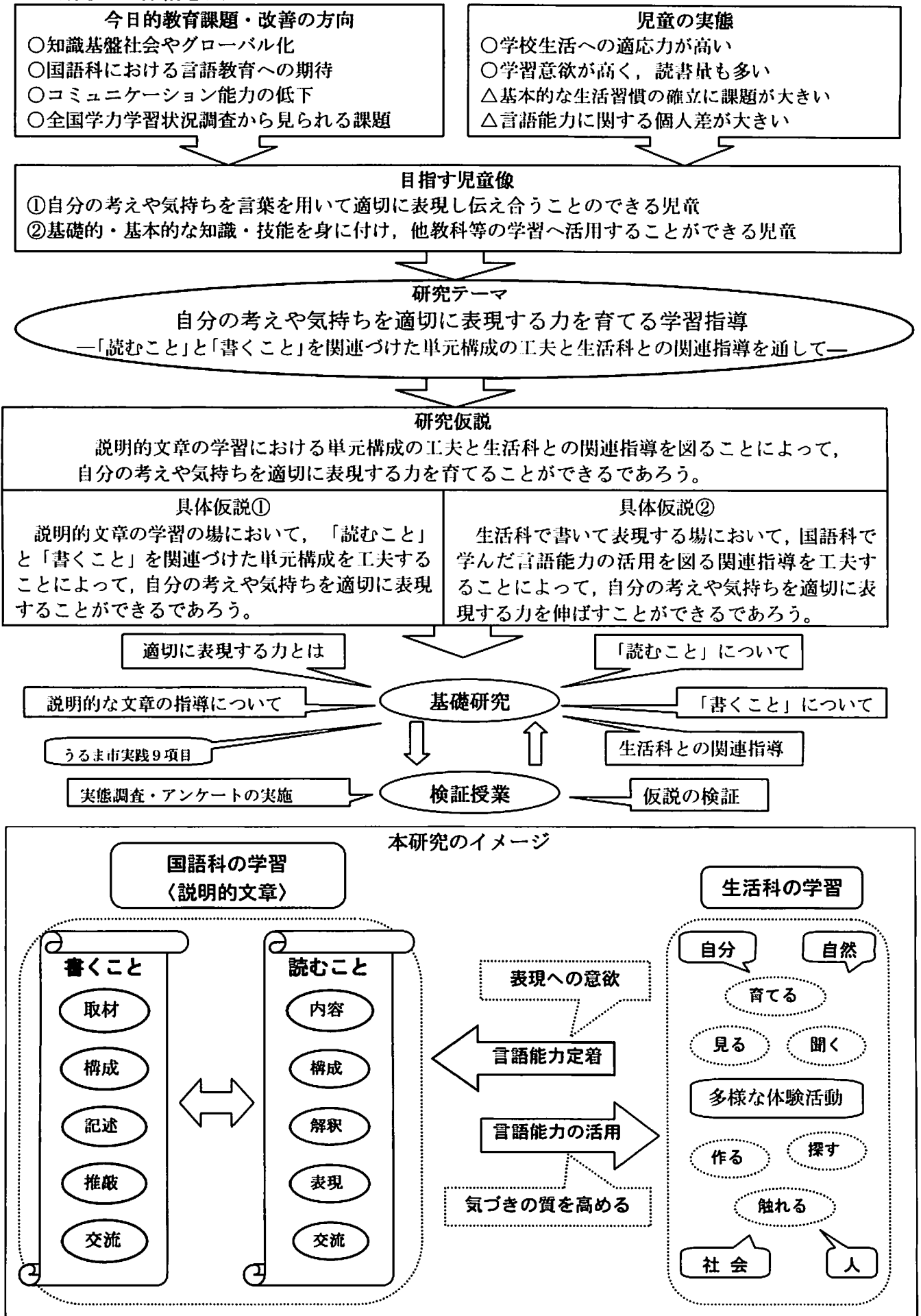
説明的文章の学習における単元構成の工夫と生活科との関連指導を図ることによって、自分の考えや気持ちを適切に表現する力を育てることができるであろう。

2 具体仮説

(1) 説明的文章の学習の場において、「読むこと」と「書くこと」を関連づけた単元構成を工夫することによって、自分の考えや気持ちを適切に表現することができるであろう。

(2) 生活科で書いて表現する場において、国語科で学んだ言語能力の活用を図る関連指導を工夫することによって、自分の考えや気持ちを適切に表現する力を伸ばすことができるであろう。

IV 研究の全体構想図



V 理論研究

1 「適切に表現する力」について

国語科の目標に「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高める」と示されている。つまり、国語による表現力や理解力等の言語能力を育成することが最も基本的な目標として述べられている。人と人との関わりの中で、互いの立場や考えを尊重し生きて働く言葉として、相手・目的・意図・場面・状況等に応じて適切に表現し正確に理解したりする力として育成することが大切である。表現する力は主に「話す力」と「書く力」であると考えが本研究においては特に「書く力」の育成に焦点を絞り、低学年の「書くこと」の領域における実践研究とする。学習指導要領における「書くこと」の目標と系統は以下の表1のように示されている。

表1 「書くこと」の目標及系統

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
目標	(2) 経験したことや想像したことなどについて、順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章を書く能力を身に付けさせるとともに、進んで書こうとする態度を育てる。	(2) 相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書く能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら書こうとする態度を育てる。	(2) 目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章を書く能力を身に付けさせるとともに、適切に書こうとする態度を育てる。

本研究でめざす「適切に表現する力」とは、自分の身近な出来事などについて、主語と述語の整った文で、順序を考えながら「はじめ・中・終わり」の簡単な構成で表現したり、書いた物を読み合い感想を伝え合ったり、自分の考えや気持ちをまとめ、発表し合う等の能力と、自分の考えや気持ちを進んで書いて伝えようとする関心・意欲・態度のことであると考え。

2 説明的文章における「読むこと」と「書くこと」の関連指導について

(1) 説明的文章とは

相手が知りたいことや疑問に思ふ事柄について、情報や知識を分かりやすく伝える文章であり、事実に基づいて書かれた文章のことを示す。

〈事実に基づいて書かれたもの〉

○説明文 ○観察・日記文 ○伝記 ○報告文 ○手紙文 ○感想文 ○意見文
○紀行文 ○評論文 ○批評文 ○解説文など

(2) 説明的文章の指導の目的

私たちは、日々の生活の中で、新聞や広告、料理のレシピや機械の使い方の説明書を読んだり、絵本や小説を読んで感想を伝えたりしている。また、日記や手紙、また仕事で会議の記録や報告書を読む、書くなど、様々な形の説明的な文章を読んだり書いたりしている。このような日常生活に生きて働く力として、文章を読み、そこから得た知識や感動を適切に表現する力を育てることが大切であると考え。

(3) 説明的文章で学ばせたいこと

これまでの説明的文章の学習では、書かれている内容の読み取りや段落の要点、文章の要旨を捉えたりするなど、正確に理解させることに重きを置いてきたように感じられる。岡嶋太輔(2009)は、説明的な文章を読んで学ぶことのできる事柄として次の3つのことを挙げている。

- ①説明的な文章を読んで「内容」を学ぶ
- ②説明的な文章を読んで「読み方」を学ぶ
- ③説明的な文章を読んで「表し方」を学ぶ

説明的な文章では、自分の気持ちや考えを適切に表現するために、何がどのように書かれているか(事実と意見・理由と結果等の表現・文章の構成や記述の仕方等)を読み取る技術や方法、表現仕方等を学ばせていくことが大切だと考える。

(4) 「読むこと」と「書くこと」の指導内容の関連

小学校学習指導要領では、指導計画の作成と内容の取り扱いの中で、指導計画作成上の配慮事項として『(2)第2の各学年の内容の「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」及び〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕に示す事項については、相互に密接に関連づけて指導するようにするとともに、それぞれの能力が偏りなく養われるようにすること。』とし、それぞれの領域の内容を相互に密接に関連させながら指導することで、指導の効果を高めることをめざしている。そこで、「書くこと」の指導と関連して「読むこと」の指導を組み合わせることで指導の効果を高めることが望めると考える。下の表2は、「書くこと」の領域と「読むこと」領域における指導内容を示したものである。下線部は、共通した指導内容となっている。例えば「事柄の順序」に関する指導事項については、「書くこと」のイに「事柄の順序に沿って」とある。「読むこと」イに「時間的な順序や事柄の順序など」とある。このように各領域に示されている内容は他の領域の内容と相互に関連している。そこで、単元の構成を工夫して関連づけた指導を図ることで指導の効果を高めることができると考える。

表2 低学年の「読むこと」と「書くこと」の指導内容の関連

「読むこと」の指導内容		「書くこと」の指導内容	
音読	ア <u>語のまとまり</u> や言葉の響きなどに気を付けて音読すること。	課題設定	ア 経験したことや想像したことなどから書くことを決め、 <u>書こうとする題材に必要な事柄を集める</u> こと。
説明的解釈	イ <u>時間的な順序や事柄の順序</u> などを考えながら内容の大体を読むこと。	構成	イ 自分の考えが明確になるよう <u>事柄の順序</u> に沿って簡単な構成を考えること。
文学的解釈	ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 エ 文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。	記述	ウ <u>語と語や文と文との続き方</u> に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。
形成交流	オ 文章の内容と自分の経験を結びつけて、 <u>自分の思いや考えをまとめ、発表し合う</u> こと。	推敲	エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、直すこと。
読書	カ <u>楽しんだり知識を得たりするために本や文章を選んで読む</u> こと。	交流	オ 書いたものを読み合い、よいところを見つけて <u>感想を伝え合う</u> こと。

(5) 「読むこと」と「書くこと」の具体的言語技術の関連

説明的な文章の学習で、低学年の子ども達に身に付けさせたい力として、「読むこと」と「書くこと」の指導内容を基に、具体的な言語技術として下の表3のようにまとめた。具体的言語技術については、白石範考氏(2011)「説明的文章の学習で習得させたい読みの方法・技能の系統」と、大森修氏(2003)の「評価項目(言語技術)一覧」を参考にして「読むこと」と「書くこと」の具体的言語技術をまとめ整理した。実際の学習活動において、「読むこと」で習得した言語技術を活用して「書くこと」の指導に生かすことで、指導の効果を高めたい。

表3 説明的文章の学習で身に付けさせたい具体的言語技術の関連

「読むこと」の具体的言語技術(低学年)	「書くこと」の具体的言語技術(低学年)
◇題名を手がかりに書かれている事柄をつかむ	◆相手や目的に応じて、話題を選んで書く
◇何がどんな順番で書いているか、内容の大体をつかむ	◆目的に応じて、必要な事柄を集める
◇絵や写真等を本文と対応させて、内容をとらえる	◆事柄の順序を考えながら書く
◇問いの文と答えの文を見つけ、比べながら読む	◆段落のつながりに気を付けて書く
◇意味や内容の大体を順序よく説明する	◆文章全体の組み立てと筋道を考えて書く
◇主語と述語の関係に注意して読む	◆主語と述語関係が整った文を書く
◇文字の表記や意味のまとまりを考えながら読む	◆文字の表記に気を付けて書く
◇語句の種類や文末表現に気をつけて読む	◆書きことばが分かり、書ける
◇いろいろな種類の本や資料を読む	◆表記の仕方に注意し、句読点を適切に使う
◇文末表現による文の内容や役割に気を付けて読む	◆書いた文章を読み返し、間違い等を直す
◇文章の内容と自分の経験を結びつけ考える	◆文章を読み、表記のよいところを考える
◇本等を読んだ感想を話したり、書いたりする	◆自分の感想や考えを伝える

(6) 「読むこと」と「書くこと」の単元構成

説明的文章の学習における「読むこと」と「書くこと」の指導事項の関連を図った単元を設定し、表4のように4つの学習段階を構成し、効果的な指導を目指す。

表4 「読むこと」と「書くこと」を関連づけた単元の学習段階

- 第1段階：説明的文章を学習することの目的について目標を持たせる。
 第2段階：教材文の内容を読み取り、構成や表現の仕方や方法を学ぶ。
 教材文をモデルに、学級全体で同じテーマの「まねっこ作文」を書く。
 第3段階：教材文をモデルに、自分のテーマで書く作文「自立作文」を書く。
 第4段階：書いた作文を友だちや家族、地域の人たち等に読んでもらう(交流)。

これらの活動を通して、説明的文章で、何がどのように書かれているかを読み取る方法や表現の仕方を学ぶことができる。そして、自分で説明的文章を書いて他の人に読んでもらう活動を通して書いて伝える楽しさや喜びを味わい、さらに伝え合いたいという関心・意欲・態度を育むことにつながると考える。

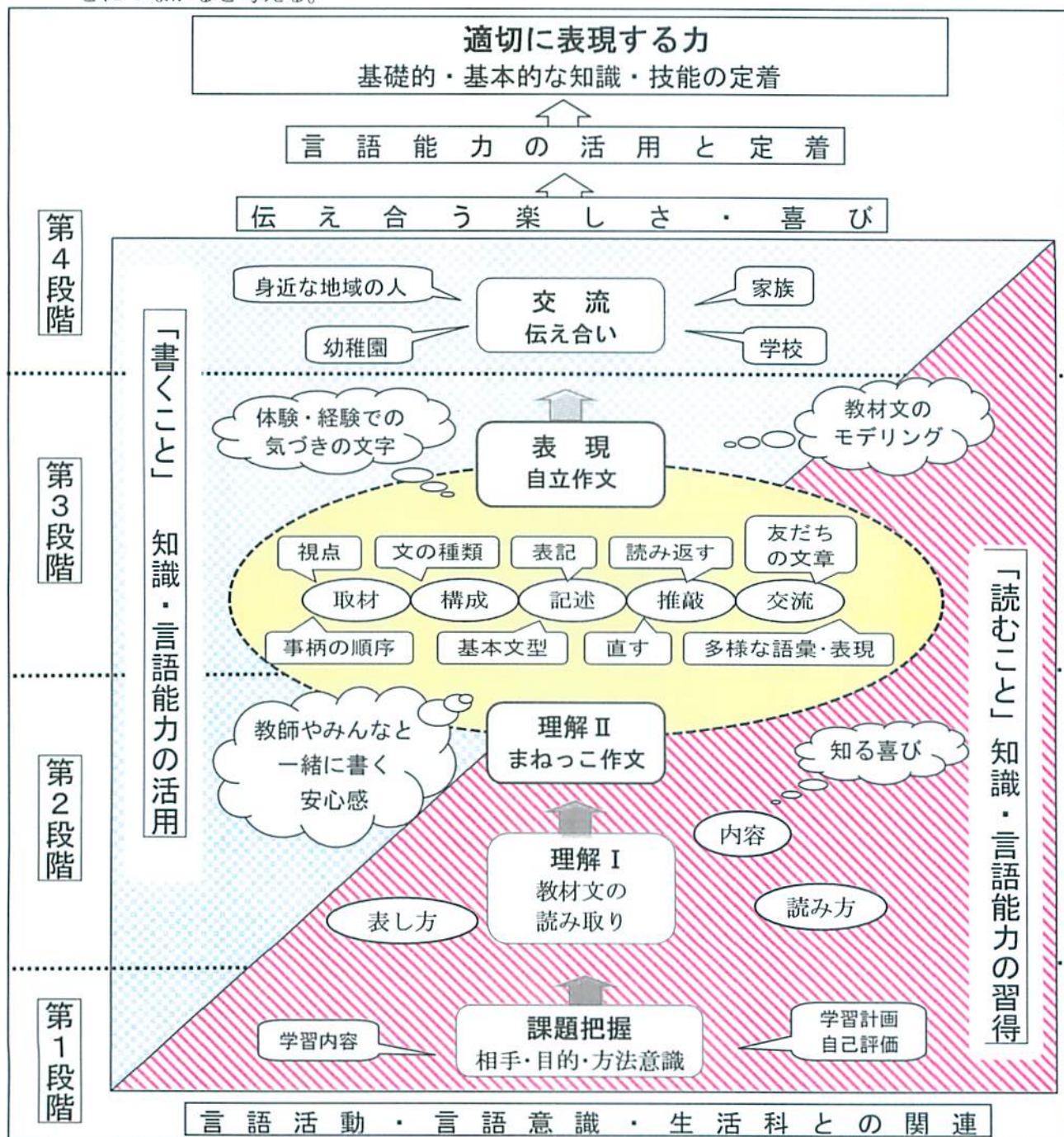


図1 「読むこと」と「書くこと」を関連づけた単元の学習段階

(7) 「読むこと」と「書くこと」を関連づけた単元の年間指導計画（第1学年）

適切に表現する力を育てるためには、一年間を見通して説明的文章の指導における単元構成を工夫する必要がある。そこで、小学校1年生の国語科の「読むこと」と「書くこと」の領域の関連づけた指導の年間計画を作成した（表5）。国語科の指導内容と他教科等との学習内容と関連付けた単元構成を工夫し言語活動の充実を図ることで、言語能力の活用とその定着を目指した。

表5 「読むこと」と「書くこと」における年間指導計画表（参考資料：光村図書 第1学年）

	単元名・『言語活動名』	◇「読むこと」◆「書くこと」の指導事項	言語活動（5つの言語意識）
四月	◎どうぞ よろしく 『名刺交換をしよう』	◇名刺の書き方を知る。 ◆自分の名前等を書いた名刺を作る。	①学年・親子②いろいろな人と仲良くなる③生活科・授業参観日④自分の名刺を作り交換する⑤自分の名刺を作り交換できたか
五月	○なぞなぞあそび 『なぞなぞスピーチをしよう』	◇なぞなぞの文の構成を読み取る。 ◆「問い」「答え」「ヒント」の文型に合わせてなぞなぞの文を書く。	①学級の友だち②なぞなぞを出し合い楽しむ③朝の会④自分の作ったなぞなぞを発表する⑤なぞなぞを作り発表できたか
六月	○くちばし 『鳥のくちばし図鑑をつくろう』	◇「問い」と「答え」が3回繰り返されている文章の構成を読み取る。（列挙） ◆「問い」と「答え」の基本文型で、他の鳥のくちばしについて文を書く。	①自分②いろいろな鳥のくちばしの特徴や使い方を調べ、文を書く③図鑑を作る④自分の好きな鳥の絵や文を書く⑤自分の好きな鳥について文を書き図鑑を作れたか
七月	○すきなものなあに 『わたしはだあれ』	◇「～は、～です。」「それは、～だからです。」等の基本文型を学ぶ。 ◆「すきなもの」と「その理由」の順序で、2文構成の文を書く。	①学級の友だち②「わたしはだあれ」クイズ会を開く③学級活動④自分の好きなもと、その理由についてクイズを書く⑤クイズを書き発表できたか
	○かけるようになった 『幼稚園の先生へ葉書を出そう』	◇絵日記・手紙文の書き方を知る。 ◆教科書の作例を基に、絵日記や手紙を敬体で書く。	①幼稚園の先生②暑中見舞いのはがきを書く③出身幼稚園④伝えたいことをはがきに書き投函する⑤はがきが書けたか
九月	○みつけた 『虫・虫図鑑をつくろう』	◇「問い-答え-答え-答え」の文章構成の説明文を読む。（列挙） ◆「問い」に対し「場所」「特徴」「見つけ方」の順序で自分の虫について文を書く。	①自分②学校の中で発見した虫について説明する文を書く③学級④自分の発見した虫について絵や文を書く⑤自分の虫・虫図鑑を作ることができたか
十月	○よく見てかこう 「しらせたいな見せたいな」 『お家の人に知らせよう』	◇教科書の作品例から、観察記録文のメモの書き方や文の書き方を読み取る。 ◆自分の知らせたいものについて、観察記録文を書く。	①お家の人②学校にいる生き物について作文を書く③各家庭④作文を書き伝える・お家の人から感想の手紙をもらう⑤自分の作文を書き、家の人に渡すことができたか
十一月	○くらべてよもう 「じどう車くらべ」 『自動車図鑑をつくろう』	◇「2つの問い-答え-答え-答え」の文章構成の説明文を読む。（列挙） ◆好きな自動車について「そのために」を使い「しごと」と「つくり」の文を書く。	①お家の人②学校にいる生き物について作文を書く③各家庭④作文を書き伝える・お家の人から感想の手紙をもらう⑤自分の作文を書き、家の人に渡すことができたか
一月	○言葉っておもしろい 「お店やさんごっこをしよう」 『みんなで楽しく』	◇言葉の種類や働きが分かる。 ◇上位語・下位語の関係に気づく ◆お店やさんごっこに必要な事柄を集め、宣伝のちらしを書く。	①学年②お店屋さんごっこをして遊ぶ③生活科④お店を開くための看板・品物・ちらしを作る⑤グループでお店を開き学年の友だちと一緒に活動できたか
二月	○違いを考えてよもう 「どうぶつの赤ちゃん」 『動物の赤ちゃん図鑑をつくろう』	◇「2つの問い-答え-答え-答え」の文章構成の説明文を読む（対比的説明）。 ◆好きな動物の赤ちゃんの「生まれたばかり」「大きくなっていく」様子の文を書く。	①自分②自分の好きな動物について作文を書く③学級④好きな動物の赤ちゃんの成長の様子について文を書き図鑑を作る⑥自分の動物の赤ちゃん図鑑が作れたか
三月	○おおい出してかこう 「いいこつばい1年生」 『思い出アルバムを作る』	◇一年間の思い出について「始め・中・終わり」の文章構成で書く。 ◆写真や絵から思い出した出来事や事柄について作文を書く。	①家庭②1年生の思い出アルバムを作る③終了記念④写真や絵・動画などをもとに、1年生の思い出を作文に書く⑤思い出アルバムを作り、持ち帰ることができたか

3 生活科と国語科の関連指導について

(1) 生活科における表現活動

生活科の教科目標(3)には、「身近な人々、社会及び自然に関する活動の楽しさを味わうとともに、それを通して気付いたことや楽しかったことなどを言葉、絵、動作、劇化などにより表現できるようにする。」とある。生活科の具体的な活動や体験の中で生じる様々な思いや気づきを言葉や文などで表現し伝え合うには、言語能力が大きく関わっている。

田村学(2007)は「体験が表現を豊かにし、表現が体験を充実させていく…」と言葉による表現活動の重要性を述べている。

そこで、国語科で学んだ言語技術を活用して生活科の学習を行うことで、表現活動を充実させ国語科で育てる能力の向上が図られると考える。

(2) 「生活科絵日記」について

生活科における表現活動として、生活科絵日記を取り上げた。具体的な体験活動等の機会を捉えることで、書いて表現する必然性が生まれ、児童の書くことへの関心意欲を高めることにつながる。また、国語科との関連指導を図ることで、児童の表現力の向上が図られ質の高い気づきや学びが期待できる。

絵日記の指導は、国語科では7月に配置されている。しかし、本実践では入学当初の4月から、国語科学習と並行しながら、生活科での共通体験・活動をもとにして「生活科絵日記」として指導していく。特に、栽培活動等について、観察記録文の指導内容を関連させながら「生活科絵日記」を書かせることが効果的であると考えた。その理由として、以下のような点が挙げられる。

表6 「生活科絵日記」の指導における効果的な理由

- ・書く時間を設定することで、全員に十分な時間を保障できる。
- ・必要な言語技術について、教師が児童の実態に即して指導できる。
- ・共通体験を基に、同一テーマ・同一内容で書ける。
(一緒に書く友だちがいて、相談をしたり表現を参考にでき安心感が持てる。)
- ・国語科の指導内容と関連させることで、言語能力の活用と習得が図られる。

(3) 生活科と国語科との関連を図った指導計画の作成について

学習指導要領解説国語編では、指導計画の作成と内容の取り扱いの中で、低学年の児童の特性を考慮して、生活科や幼稚園教育との関連について「(6)低学年においては生活科などとの関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにすること。」と示している。幼児期は体験活動が中心の時期であり、周りの人や物、自然などの環境にかかわり、感じるなど、活動と場、体験と感情が密接に結びついている。

このような発達の特性を生かして、国語科の学習内容との関連指導を図ることで児童の気づきや学びを質的に高めたり、他の人たちと伝え合ったりする等の言語活動が充実し適切に表現する力が高まると考え指導計画を作成した(表7)。

表7 国語科との関連を図った指導計画の例

次	単元名・主な学習活動	主な言語活動	国語科との関連指導
1	大単元『わたしのあさがお』		
2	小単元2「きれいな花をそだてよう！」 活動3：花の育て方を調べよう 活動4：あさがおを育てよう	◇図書資料の活用 ◇観察記録を書く	◆図書館利用等 ◆観察記録文の書き方 ・観察の視点
3	小単元3「わたしのあさがおものがたり」 活動5：種が取れたよ 活動6：「あさがおものがたり」を作る 活動7：「あさがおものがたり」発表会	◇メッセージを書く ◇観察記録のまとめ ◇幼稚園との交流会	◆文章の構成 ・手紙文「前文・本文・末文・あとづけ」 ・あさがおものがたりの構成「はじめ→中(観察記録)→終わり(まとめ)」 ◆交流会の企画・準備・実施 ・司会・プログラムの構成・発表の仕方等

目：視覚
耳：聴覚
手：触覚
舌：味覚
鼻：臭覚

① 生活科との関連を図った言語活動の充実

指導計画に主な言語活動の場面と国語科の言語活動例を位置づけ指導に生かした。例えば生活科の大単元『わたしのあさがお』では、小学校低学年における国語科の説明的文章の観察記録文の指導内容を取り入れ、「生活科絵日記」を書く際、自分の気付いたことや考えたことを分かりやすく表現する方法を身に付けられるように工夫した(表7)。

このように、国語科で学んだ知識・技能を生活科の学習で生かすとともに、生活科での具体的な活動や体験を国語科の言語活動の題材として活用するなど関連させて学習を進めることで、言語活動の充実を目指した。

② 単元構成の工夫について

豊かな活動や体験を基盤とし、伝えたいことを分かりやすく整理して生活科絵日記や手紙等を書いたりするためには、国語科との関連指導を図り単元の構成を工夫し、適切に言語活動を位置付けていくことが大切である。また、交流活動を学級→学年→校内(職員・異学年・幼稚園)→家庭→地域等と関わる対象を広げながら繰り返し行っていく。そのことによって、児童が交流することの楽しさを実感し、さらに進んで交流していこうとする態度が養われるとともに、言語能力の活用と定着が図られていくと考える。

(4) 国語科との具体的な関連指導について

本研究では、まず1学期に計画されている生活科の朝顔の栽培活動で行う「朝顔絵日記(生活科絵日記)」の指導を取り上げた。

この時期の子どもたちは、朝顔の世話を通して、気づいたことを一生懸命指導者に話に来る。しかし、入門期は自分の気づきや思いなどを言葉で表現する手段が身に付いていないため、朝顔を観る視点は曖昧で、「朝顔絵日記」の内容も変化が見られにくい。そこで、身近な動植物を対象とした観察記録文として、「朝顔絵日記」に焦点を当て関連指導を図る。

また、その他の生活科単元の活動記録文として「生活科絵日記」を国語科の指導内容を関連づけ系統的・計画的に行っていくことで、自分の気持ちや考えを適切に表現していく言語能力の育成をめざしたい。

観察記録文の指導にあたっては、入門期の1年生にとって興味・関心の高い、大単元『わたしのあさがお』の朝顔の栽培活動を取り上げる。観察記録文の初期指導として、観察の視点も持ち方や表現の仕方等について「書くこと」の指導内容との関連を図るため、特に、次のことに留意し指導していく(表8)。

表8 「書くこと」の指導内容との関連事項

課題設定・取材	○観察する力を育てる ○メモする力を育てる	・「種」「双葉」「本葉」「蔓」「蕾」「花」「実」等、各成長段階のイラスト入りの絵日記のワークシートを用意する。 ※絵を描くことに抵抗がある児童も、イラストが入っていることで安心して観察し、言葉で表現する時間を確保することができる。 ※塗り絵をすることで、絵のいろいろな表現法にも触れる機会となる。 ・観察の視点：5感(視覚・触覚・聴覚・臭覚・味覚)と感情(心)等 ・「メモ」の言葉と「文」の違いを捉えさせる。
構成	○文章構成 「はじめ(書き出し)」 「中(観察したこと)」 「おわり(感想)」	・基本文型 【あさがおの〇〇が、～ました。】 【あさがおの〇〇の◇◇は、〇〇みたいです。】【〇〇は、～です。】等 ※1年生の観察記録文の「終わり」の指導として「毎日水かけをして、きれいな花をさかせたい。」等自分の思いを簡単な感想という形で書かせる。
記述	○主語と述語の整った文 ○語と語の続き方	・基本文型「〇〇は(が)、～です(ます)。」を基に、文末表現も大事にする。 ・「メモ」で書いた言葉を基に、文を書く。
推敲	○書いた文を読み返す ○間違えを正す。	・提出する前に、自分で微音読させる。または、提出時に教師に音読して聞かせる。 ・表記の間違った箇所の訂正の仕方を指導。書き直しが多いと、作文学習への意欲を無くす原因になりやすい。1学期は、教師が間違えた箇所の近くに正しく朱書き。2学期からは、その部分だけ訂正させる。
交流	○友だちの表現に触れる ○語彙を増やす	・自分の感じたことを発表させたり、教師が紹介し板書する。 ・掲示コーナーを活用：「言葉のちょ金ばこ」で参考となる表現を紹介。

VI 研究実践

【国語科における実践】

1 授業実践 (第1学年)

(1) 単元名 よく見て書こう 教材名「しらせたいな、見せたいな」(光村 一年下)

(2) 単元目標

◎読み手によく分かるように順序や構成を考えながら説明する文章を読み、書くことができる。

2 本単元と言語活動

本単元の言語活動は、「書くこと」の言語活動例ウ(身近な事物を簡単に説明する文章などを書くこと)と、「読むこと」の言語活動例ウ(事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと)である。

教材文から、「メモ」や「文」の書き方、「文の構成」等を読み取り、自分知らせたい生き物について、相手に分かりやすい文章を書くという、「読むこと」と「書くこと」を関連づけた言語活動の展開をねらいとした。生活科との関連指導を図り関心・意欲を高めていきたい。

3 評価計画〔評価の観点から見た単元の目標と評価規準及び評価基準〕

関心・意欲・態度		書くこと	読むこと	伝統的言語文化	
目標	知らせたい生き物について家の人に書いて知らせようとしている。	文章の構成に沿って知らせたい生き物について作文に書くことができる。	紹介文の構成や分かりやすく伝えるための視点や文の書き方を理解できる。	句読点や文字を正しく表記できる。	
次時	学習目標	評価規準 (評価方法)	評価基準		
			A十分満足できる	Bほぼ満足できる	C努力を要する児童への手立て
1	◎教材文を読み、学習の見通しを持つことができる。	【読むこと】(2)イ ・「誰に・何を・どのように知らせるのか分かる。 [作文シート1]	◎作品例を読み、家の人に伝えたいものを考え、書く活動に意欲を持つ。	◎学校の生き物ものについて家の人に文章で伝える活動であることを知る。	◇生活科での活動を想起させることで、家の人に伝えたいという思いをもたせる。
2	◎教科書の「見つけたカード」の例から、メモの書き方を知る。	【読むこと】(2)イ ・作品例を参考にメモの書き方を理解できた。 [作文シート2・3]	◎作品例を基に、他の視点で3つ以上メモを書くことができた。	◎作品例を基に、他の視点でメモを1つは書くことができた。	◇友だちのメモを参考にさせたり、観察の視点を示し、書かせる。
3	◎教科書の「見つけたカード」と作品例から、文の書き方を知る。	【読むこと】(2)イ ・作品例を基に、メモから文を書く。 [作文シート2・3]	◎作品例を基に、自分なりの表現を工夫し、5つ以上の視点で文が書けた。	◎作品例を基に、別の視点でのメモを文にすることが1つはできた。	◇教師と一緒にメモの言葉をつなぎ口頭作文させながら書かせる。
4	◎「始め・中・終わり」の文の組立について知り、もこの作文を書く。	【書くこと】ウ ・メモを基に、まねっこ作文を書く。 [作文シート2・3]	◎作例以外の視点等について自分の表現を用いて文を書くことができた。	◎「書き出し」「感想」を書き、まねっこ作文を仕上げることができた。	◇友だちの表現を参考にさせ、口頭作文させてから書かせる。
5	◎知らせたいものを「見つけたカード」に描くことができる。	【書くこと】(2)イ ・知らせたいものを「見つけたカード」に描く。 [作文シート4]	◎実物を見ながら絵を丁寧に描き、伝えたいことと対話をしながら進めた。	◎実物を見ながら、色や形をよく見て丁寧に絵を描くことができた。	◇大きさ・色・形等に目を向けさせ、その子なりの表現のよさを認めて褒める。
6	◎気がついたことをメモに書くことができる。	【書くこと】(2)イ ・気がついたことをメモし「見つけたカード」に貼る。 [作文シート4]	◎色・形・大きさ・動き・さわった感じなどの多様な視点で、メモすることができた。	◎色・形・大きさなどについてメモすることができた。	◇色・形・大きさ等について教師が質問し、メモを書かせる。
7 検証	◎メモから「文」を書くことができる。	【書くこと】(2)ウ ・メモをもとに文を考える。 [作文シート5]	◎多様な観点から、4文以上書くことができる。	◎「～は、～です。」等の文型で知らせたいものについて3文程度書ける。	◇口頭作文した後、文を書かせる。 [補助カード]
8	◎「文」を読み返し、文の組立を考えることができる。	【書くこと】(1)イ ・文章の順番を考え下書きする。 [作文シート6]	◎書く順番を工夫して、下書きができる。	◎書く順番を決め、下書きを書くことができる。	◇友だちの文章を参考に、教師と一緒に、考えながら書かせる。
9	◎書いた文章を読み返し、清書することができる。	【書くこと】(1)ウ ・文章を読み返し間違えなどに気づき、直す。 [作文シート7]	◎家の人に呼んでもらうことを意識しながら丁寧に清書することができた。	◎整った文字、正しい表記で清書することができた。	◇1マス下げなどこから書けばよいかを鉛筆で薄く印を付けたりして教える。
10	◎保護者からの感想を読み、学習を振り返る。	【書くこと】(1)オ ・家の人感想を読み、学習のまとめをする。	◎家の人感想を読み、学習のまとめや今後のめあてを持てた。	◎家の人感想を読み、作文のよさに気づき学習のまとめを書けた。	◇家の人感想を読ませ、自分の作文のよさを気付かせる。

4 単元について

(1) 教材観 (省略)

(2) 児童観

① 国語の学習についてのアンケートからの考察

国語の学習についてアンケートによる調査では、全員が国語の学習に関心が高く、意欲的に授業に望んでいることがうかがえる。国語の授業で上手になりたいことについて、「発表の仕方」や「日記や作文が上手になること」とを多数の児童が答えていた。

② 「書くこと」の調査結果による考察

「書くこと」の言語能力として、9月のメモ日記から調査した。主語と述語の関係を押さえ、語と語の続き方に注意し助詞や句読点を使って文を書けない児童は20%である。1学期から、日記や作文指導でも、個別指導を行っている。半数近くの児童が、表音通りに表記したり、「ひまわり」を「ひまはり」「えんそくへいく」を「へんそくえいく」等のようなミスをする傾向があり、定着するまで繰り返し指導する。

また、文字を正しく丁寧に書くことについて、急ぐあまり文字を丁寧に書けない児童45%いる。原稿用紙の使い方については、今後の指導事項であるので、継続して指導する。教科書に出てくる語句の聴写は、正答が多いが、普段の日記などの文章になると、誤った表記も多くなっている。カタカナや漢字・語彙指導等と合わせて指導する。

③ 「読むこと」の調査結果による考察

音読については、1学期の市販のテストブック期末テスト活用し実施した。初見で文節や文のまとまりを意識してきちんと読める児童は、約21%名であった。1字ずつ拾い読みをする児童が9%おり、教師の後から繰り返して読ませたり、字を指で押さえながら読ませる等、個別指導を継続している。

内容の読み取りについて、物語文では、約90%の児童が書かれている言葉や表現を根拠に内容の大体や登場人物の気持ちの変化な等について読み取ることができるようになってきた。説明文の読み取りでも、約90%の児童が「問い」と「答え」の文を見付けたり、内容の大事な点について読み取ることができていた。

読書に関しては、97%の児童が1学期の読書目標を達成している。そのうちの56%の児童は、すでに100冊以上借りている。しかし、家庭での読書時間としては週に30分以内～3時間程度と個人差が大きく家庭での読書に関する課題も見られる。

(3) 指導観

① 学習への興味・関心を高め、学び合いを深めるために

子ども達は、これまでの学校生活を通して多くの体験をしてきた。その過程でだれかに「知らせたい」という気持ちが生まれてきた。本単元の導入にあたって、学校生活の中から、保護者に「書いて知らせる」という場を設定することで、書く必然性を持ち、意欲的に説明する文を書けるようにする。

単元末には、書いた文章を保護者に読んでもらって感想を学級で紹介する場を設定する。そのことによって、書いていて伝える喜びを味わい自分の作文のよさを気づいたり、友だちの作文のよさに気づかせたい。

② 相手と目的をはっきりさせて

本単元の導入にあたって、学級通信で保護者に目標と学習の進め方を知らせたり、意欲を持って学習に取り組むことを目指したい。また、学習の様子をメモ日記や学級通信等で取り上げて知らせていくことで児童の意欲を高め、保護者の理解と協力を得る。

③ 論理的思考の初期段階としての作文

書いて表現する技術や方法を身に付けさせていくため、下記のように点に留意し指導していく。

【目的的理解・題材の決定】保護者に知らせたい題材決め、よく見て「見つけたカード」を書く。

【メモの書き方】知らせたいものを伝える視点や表現の仕方を知り、メモの書き方を理解する。

【取材】「見つけたカード」に、知らせたいものの情報を視点に沿って、メモに書く。

【文の書き方】それぞれの視点について、作文シートに書く。

【文の組み立て】書いた作文カードを並べかえ、文章の組み立てを考える。

【文章化】「題名」「書き出し」「まとめ(感想)」を書き作文カードを読み返して、清書用紙に書き写す。

【交流・評価】作文を保護者に読んでもらい、感想の手紙を書いてもらう。

この時期の児童は、色や形などを観察した文章から「まとめ」を導き出すことは難しい課題である。作文の最後に、簡単な感想などの形で表現できるようにする。

④ 文字表現における基本的言語技術の習得

ア 主語と述語を対応させるための手立て

- ・知らせたいものの絵を「見つけたカード」に描く。
- ・絵を手がかりに観察したことをメモしていく。
- ・「見つけたカード」には、述語にあたる単語を極めて短い文で書く。
- ・主語に当たる「なにが」「どこが」文字化しメモに書かせる。
- ・文に書く前に、「○○は、～です。」等と口頭で表現させから作文シートに書かせる。

イ 助詞や句読点を正しく表記するための手立て

- ・書いた文章を読み返すことの習慣化を図る。
- ・助詞「は」「を」「へ」の表記等についてペアで交換し読ませる。
- ・文の終わりに丸(。)がついているか。
- ・読点(、)の打ち方は明らかにおかしい場合を除いては柔軟に対応する。

5 授業の実践

(1) 単元の指導の概要 (学習指導計画 全 10 時間)

時	学習の流れ	指導上の留意点
第一段階 一 1	①教科書のP17～20を読み、だれに・何を・どのように知らせるのかを読み取る。	・教科書を読み、学習内容や進め方を確認し[作文シート1]に相手・目的・内容と学習の進め方(順番)を書かせる。 ・自己評価欄の書き方の確認。
第二段階 二 2	①作品例「見つけたカード」の書き込みの内容の視点を読み取る。 ②付箋に書き貼る。 ③他の視点メモを書く。	・付箋のメモ(黄色=五感・ピンク=思ったこと) ・主語をはっきりさせるため、メモに主語に当たる部分の名称を書かせる。 ・協同作文:「耳」「足」メモを書き言語技術の習熟を図る。
三 3	①教材文「モルモットのもこ」について、作品例の中でメモに書いた言葉がどのようにつながっているかを読み取る。 ②他の視点のメモを基に文を書く。	・作例の基本の文型を押さえる。主語に当たる言葉と述語に当たる言葉のつながり方(助詞の使い方)を押さえる。 「○○は(が)、～です。」等 ・友だちの書いた文を基にいろいろな文の書き方を知る。
四 4	①もこの作文の組み立てを考える。 ②「題名」「名前」「自分の感想」を書く。 ③[作文シート4]を[作文シート3]の「書きだし・中①(作例文) ②(自作文)」と組み合わせ作文を完成させる。	・生活絵日記で学んだ「始め・中・終わり」の作文の組立てを思い出させる。 ・作文の構成の「始め」は、「中」の部分で順序を表す言葉の「はじめに」と混同しやすいので『書きだし』として押さえる。 ・題名や名前の書き方として原稿用紙の使い方を確認する。
第三段階 三 5	①知らせたいものの絵を「見つけたカード」に書く。 ②教科書の作品例を見て見つけたカードの書き方を知る。	・p21の教科書の絵を提示し、カードの書き方を知らせる。 ・五感や「大きさ」「形」「～みたい」等の視点を押さえ気づきを促す。
六 6	①気がついたことを、メモに書く。 ・毛「しろ」「くろ」「ふわふわ」 ②友達のメモを参考に、自分のメモを書き加える。	・見る、聞く、触る、におい、味、その他、といった視点を確かめる。 黄色:見る・聞く・触る・におい・味等(五感)ピンク:思ったこと ・気がついたことをメモに書き「見つけたカード」に貼る。
七 7 検証 授業	①もこの作品例から、文の書き方を確かめる。 ②自分の「知らせたい生きもの」メモから文を書く。 ③自分の文を読み返し、直したりする。	・基本文型「○○は、～です」「○○は、～みたいで～です。」等を押さえる。 ・自分の知らせたいことのメモから書かせる。 ・自分の文を読み返し間違いなどを直す。
八 8	①作文カードの文の順番を考える。 ②題名・名前・書き出し・まとめを書く。	・伝えたいことから並べ微音読させながら順番を考えさせる。 ・まとめは、家の人に自分の感想を伝える文になるように書かせる。
九 9	①自分の下書きを読み返す。 ②清書する。 ③お家の人に自分の作文を読んでもらい感想を書いてもらう確認する。	・自分で読んだ後、ペアで交換し読み合う。間違いや分りにくいところなどが確認させる。 ・丁寧に書かせるために書くスピード「かたつむりが歩くような速さ」で等イメージを持たせる。
第四段階 四 10	①家の人からの感想を読み合い、発表する。 ②自分の感想文を書く。	・「感想カード」は事前に学級通信で依頼しておく。 ・家の人からの感想などを基に自分の作文学習全体の自己評価(学習の振り返り)して書かせたい。

(2) 本時の指導(本時7/10)

①本時の目標

「見つけたカード」のメモを基に、知らせたいことの文を書くことができる。

②授業仮説

「見つけたカード」のメモを基に文を書く場において、基本文型を提示することによって、主語と述語の関係や・言葉と言葉のつながり等に気を付けて自分の知らせたいこと文を書くことができるであろう。

(3) 本時の展開

	学習活動	予想される児童の反応・授業の様子等	指導上の留意点
導入	1 本時のめあて めあて「見つけたカード」のメモを文にしましょう。		
展開1	2 教師が示す教材文 「モルモットのもこの」の「見つけたカード」のメモをもとに説明する文を考える。 (1)もこの「耳」「足」の文について児童の作品例から言葉と言葉の続き方を確かめる。	 <p>T:モルモットのもこの「足」や「耳」のメモの言葉を文にしてみましょう。 C:足は、小さくて柿の種みたいな形をしています。 T:主語はなんですか。 C:主語は、もこの足です。</p>	<p>※基本文型「〇〇は、～です。」で主語と文末表現(述部)を押さえる。 ※掲示用作文カードに書く。全体で文の書き方を確認する。 ※メモの言葉と文の語と語の続き方を押さえる。 ※比喻や擬音・擬態語などを使った表現を意識させる。</p>
展開2	3 自分の「知らせたい生き物」について文を書く。 (1)自分の「見つけたカード」のメモを文に書く。 (2)ペアで交換し読む。 (3)文を発表する。	 <p>T:友達の発表を聞いてどんなところがよかったですか。 C:ゴルフボールくらいと書いてあってよくわかりました。 T:自分の文を読んだり、ペアで交換して読み、気がついたことを教え合ひましょう。 C:文の終わり、『。』がないよ。</p>	<p>※「〇〇は、～です。」の文の形を押さえる。 ※書き終わったら、自分の書いた文を小さい声で読ませ、見直しをさせる。 ※個人差が出やすいので、個別指導をする。</p> <p>手立て:補助カードの使用 本人のメモを文にしたものの用意し作文カードに視写させる。</p> <p>※ICTを活用し、数名の作品をスクリーンに映し、全体で確認する。 ※比喻や擬音語・擬態語等を使った表現も取り上げ、紹介する。 ※微音読させ、表記の間違えや語と語の続き方など直した方がよいところがないか確認させる。</p>
まとめ	5 本時の学習を振り返り、次時の学習内容を確認する。	<p>T:今日は、どんなことができるようになりましたか。 C:メモを見ながら書いたので、たくさん書けた。 C:目や口など文をくわしく書けた。</p>	<p>・今日の学習のめあてをもとに、自分の活動を振り返えさせる。</p>

VII 仮説の検証

本研究では、説明的文章における「読むこと」と「書くこと」の関連づけた単元構成の工夫と、生活科の表現活動「生活科絵日記」の関連指導を通して、「自分の考えや気持ちを適切に表現する力」を育てることが出来たかをワークシートの記述や児童の自己評価や児童の感想等から検証していく。

1 具体仮説①の検証

説明的文章の学習の場において、「読むこと」と「書くこと」を関連づけた単元構成を工夫することによって、自分の考えや気持ちを適切に表現することができるであろう。

具体仮説①では、「自分の考えや気持ちを適切に表現する力」について、第2段階の「まねっこ作文」と第3段階の「自立作文」のメモや文の記述や、第4段階の交流活動の児童の感想文の記述、自己評価（学習の振り返り）等から検証する。

(1) 第2段階「読むこと」の指導の工夫

①「メモ」について

第2段階では、まず教材文の作品例「モルモットのもこ」の「目」や「毛」の書き込みを図7のように付箋に主語を書き、5つの観察の視点に沿って、自分の気づいたことをメモに記述させた。

その結果、29名全員が「目」「口」「毛」「耳」「足」等5の部分について5枚以上メモを書いていた。

しかし、自分の考えたことや気持ちをメモ出来た児童は17名であった。他の12名の児童は、板書を書き写していた(図8)。そこで、「あなたが思ったことはこの中のどれか」と問いかけ、自分の考えや気持ちに近いものを選択したり、書き加えたりすることができた。

学習後の振り返りの記述から「メモの書き方が分かるようになった」「メモがかけるようになった」「メモをいっぱい書いておもしろかった」等の記述からも、教材文を読み取り、メモの書き方について理解することができたと考える。

②「まねっこ作文」について

本単元の「まねっこ作文」では、原稿用紙に「題名」「氏名」「はじめ・中(生き物の特徴)・終わり」の構成で指導した(図9)。

題名から特徴4までは、教材文である。特徴4と5は、まねっこメモから、教材文に準じて書いたものである。最後の感想は自分の思ったことを書かせた。

その結果、教師の板書例に沿って、29名全員が「まねっこ作文」を書くことができた。その中で14名は、板書の「足は、…カヌーみたいでかっこいい」を「足は、…小さいモンキーバナナみたいでおいしそう」、「耳は、…びんく色で、みかんみたい」を「耳は、…中がピンク色で、おだんごみたい」等と、自分の文に書き換えていた。

また、教材文では、「終わり」に当たる段落は書かれていなかったが、「かわいいのでお家につれて帰りたい」「お家につれてかえって、飼いたい」等、自分で感想を書けた児童が10名いた。

学習後の振り返りでは「文をたくさん書けて楽しかった」「はじめて作文がかけて嬉しい」「作文の書き方がわかった」等の記述が多く見られた。

これらのことから、教師とともに、みんなで1つのテーマで教材文を読み取りながら「まねっこ作文」を書いたことが、観察記録文の書き方や文章構成を理解することに効果的であったと考える。



図7 評価A 自分の表現ができた児童の記述例

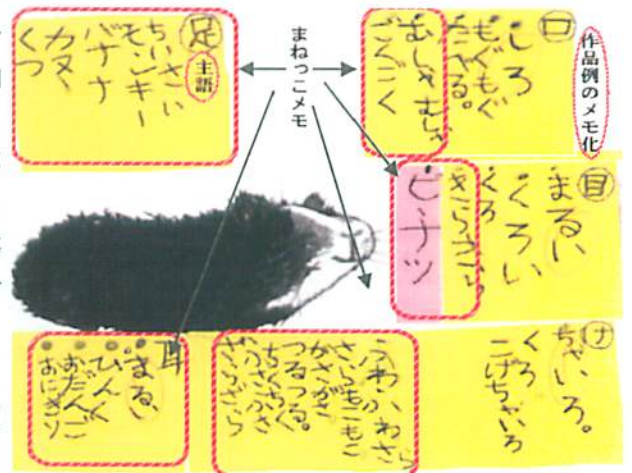


図8 ほとんど板書を書き写した児童の記述例

終わり 感想	特徴6	特徴5	中 特徴4	特徴3	特徴2	はじめ 書き出し	
で、 す。 。お か あ さん は、 に、 み せ た い く	ろ で、 み か ん み た い で す。 。く	い ろ で、 す。 。み み た い で か っ こ	も ぐ え さ を や る と、 口 を も ぐ ま す。	ま い ひ は な の が た り に は、 は え て い	る 目 は、 と、 か く ろ で す。 。ま	や い ろ も こ の け す。 。し ろ と ち ゃ	モ ッ 学 校 に、 も こ の け い す。 。モ ル モ ッ の も こ と い う モ ル

図9 第2段階における「まねっこ作文」の教師の板書例

モルモットのもこ
学校に、もこというモル
モットがいます。
もこのけは、白とちや
ろとくろです。
目は、まっくろです。ま
ろくアともかわいいです。
は、よのまわりには、なが
いひげがたくさんはえてい
ます。
えさをやると、口をもぐ
もぐうごかせてたべます。
足は、小さくてピンクい
ろで小さいモンキーバナナ
みたいでおいしそうです。
耳は、まるで、中がピ
ンクいろで、おだんごみた
いです。
もこちゃんは、かわいい
ので、学校でかいたいです。

図10 第2段階における「まねっこ作文」の児童の作品例

(2) 第3段階「書くこと」の指導の工夫

①「メモ」について

第3段階の「自立作文」では、校内で飼育している数種類の毛色のウサギやハムスター、その他校内探検で見つけた昆虫やグッピー等の中から自分の好きな生き物を題材として選択させた。それぞれの生き物の特徴について、教材文の作品例「モルモットのもこ」を基に、「読むこと」の指導関連づけて「メモ」を書かせた(図11)。

その結果、「目」「口」「鼻」「耳」「足」「体」「毛」「尻尾」「鳴き声」等について、8種類程のメモを全員が書いていた。「メモ」の内容から比較してみると、第2段階での「メモ」では、「大きさ」や「形」等、主に視覚を中心に観察して分かったことを記述していた。しかし、第3段階では、「しましま・かわいい・あたたかい・しまうまみたい」と模様・気持ち・体温・比喻表現等と、視覚・触覚・聴覚や気持ち等いろいろな視点で記述していた。生き物の様子や特徴について擬態語や比喻表現等を用いて、より詳しく表現できるようになったと考える(図12)。



図11 第3段階の「メモ」の板書例



図12 第3段階の「メモ」の児童の記述例

図13は、文中の語句の比喩表現や擬音語・擬態語等の種類や使用頻度を前述の第2段階と比較したグラフである。

第2段階では、「小さい」「かわいい」等、使用語句の種類が26語であった。

しかし、第3段階では、使用語句の種類が56語と約2倍近く増えていた。また、「まるで、～のみたいに～です。」等、副詞的な表現を用い詳しく様子や状態を表しており、多様な表現ができるようになった。

これは、「読むこと」で「書くこと」の指導事項を関連づけて、教材文の作品例を基に、メモの書き方を読み取ったことで、「メモ」の書き方を理解や友だちの表現の工夫やよさに気づき、語彙を増やしたりすることができたためだと考えられる。

②「自立作文」について

第3段階の「自立作文」では、第2段階「まねっこ作文」と同じように、まず、自分の知らせたい生き物の特徴について「文」書かせた。次に、作文の組立に沿って「題名」「氏名」「書き出し」「知らせたい生き物の特徴」「終わり(感想)」と書かせた。

その結果、知らせたい生き物の「目」「足」「耳」等それぞれの部分の特徴や様子について、28名の児童が5つ以上の部分について「文」を書くことができた。残り1名については、教師が個別指導で対応し3の部分について「文」を書くことができた。

図14は、「まねっこ作文」と「自立作文」の「文」で使用されていた語句数と文字数の平均を比較したグラフである。「まねっこ作文」では、使用されていた語句数は平均2.7語から6.2語、また、一つの部分当たりの文字数は26.6字から35.2字と増えていた。

これは、自分の知らせたい生き物の特徴について、観察の視点に沿って比喩の仕方や擬音語・擬態語等を用いた記述の仕方を第2段階「読むこと」と関連指導を図ったことや、発表や学級掲示「言葉の貯金箱」等で、友達の表現を交流させたことで、新たな語彙や表現の方法を習得できたと考える。

図15は、児童が書いた「自立作文」を指導者が評価規準に則って評価し、その到達度を示したグラフである。評価項目は、「書くこと」の指導事項や単元の目標を考慮し7項目に絞り評価した。

その結果、児童が書いた「自立作文」は、ほとんどの児童が、自分の知らせたい生き物の特徴について、自分なりに様子や気持ちを表す表現を工夫し、きちんと書くことができていた。

語と語のつながりに気をつけて、主述の整った文が書けたのは、教材文の基本文型「○○は、～です。」と主語と述語の関係やメモに書かれている言葉と言葉のつなげ方等、読み取ったことを自分の文を書くこと前に確認したことが効果的だったからだと考える。

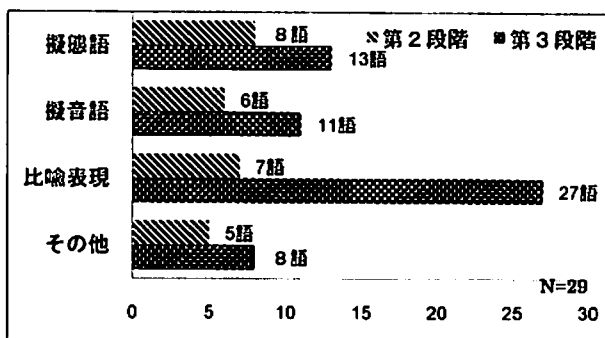


図13 メモで使用された語句数と種類

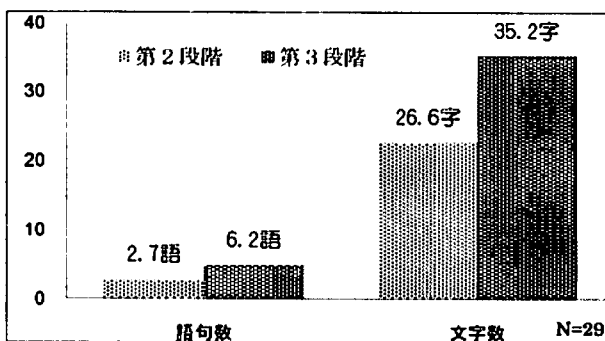


図14 各部分の平均使用語彙数と文字数の比較

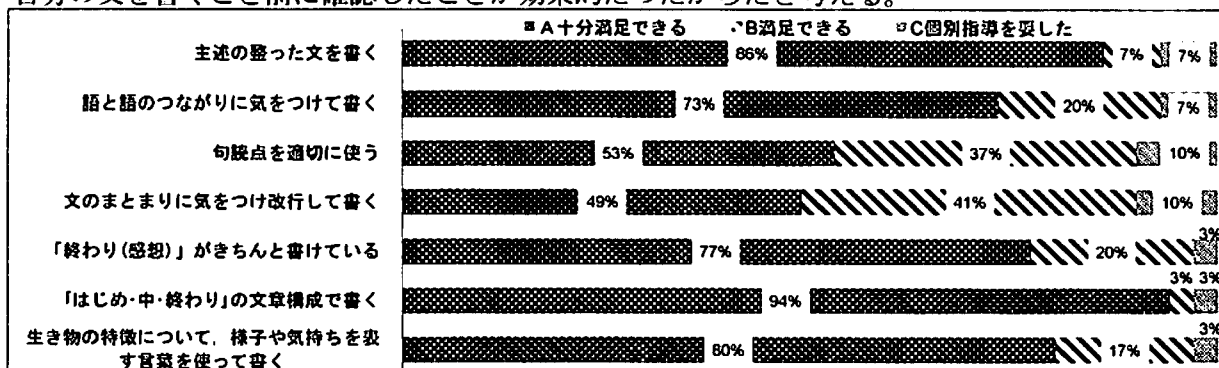


図15 本単元における言語技術の到達度 (N=29)

図 16 は、第3段階の「自立作文」の児童の作品例である。文の書き出しが「わたしたちの城前小学校には、～がいます。」と自分の学校のことについて置き換えて書かれている。本文の各部分の特徴については、「ハムスターのハムちゃんの口は、ひくひくしてて、ひまわりのたねをもぐもぐたべてかわいいです。」等、主語と述語の関係が整っていて、観察したときの様子を擬音語や擬態語を使って詳しく表現できている。また、終わりの感想では、「人気ものなので、おうちの人にみせたいし、もっとなかよくなりたいたい」と、事実の記述だけでなく、生き物に対する思いや考えを表現することができている。

図 16 「自立作文」児童の作品例(全文)

(3) 第4段階における指導の工夫について

第4段階は、第3段階で書いた「しらせたい生き物の紹介文(自立作文)」を家族が読んでの感想を書いてもらった。家族からの感想を読んでいる時の児童の顔は、どんなことが書かれているのか真剣であった。そして、その感想を読んで、自分が考えたことや気持ちを感想文に書くことで、学習のまとめとした(表8)。

今回は、家族に学校の知らせたい生き物のことを作文に書いて伝えるということで、相手や目的意識の高まりが感じられた。家族から、「耳・口・鼻等の部分に分かれて、様子や特徴、思ったことなどをよく観察して詳しく書いている」「作文を読むと、ハムちゃんの姿がハッキリと頭の中で想像できる」「上手に書けていてびっくりした」等と認められたことで、自分の考えや気持ちが伝わった嬉しさや喜びを感じていた。また、自分で作文が書けたことの自信や次の作文学習への関心や意欲を持ったことも表9から読み取れる。

表9 家族の感想文を読んだ自分の考えたことや気持ちについて(下線部は筆者による)

◇僕は、お母さんに褒められたので、またお家で書いてみます。ウサギの作文がお母さんに伝わってくれました。よく観察して特徴を詳しく書けて、とても嬉しかったです。次もがんばって、お母さんに見せます。
◇私は、ハムちゃんの様子が詳しく書かれていると褒められたので、これからもしっかりと書いて作文が上手になりたいです。もっと、もっと作文を書きたいです。
◇僕は、ハムスターの特徴がいっぱい書かなくて分かりやすいし、字もきれいで読みやすいとお父さんから褒められて、作文を上手に書けてよかったです。お母さんに「ありがとう」って言われてとても嬉しかったです。
◇お母さんは、楽しそうに書いていました。私もいい気持ちになりました。よく分かったと書いていたので、私は、お母さんに褒められて嬉しかったです。もっと作文を上手に書きたいです。

以上のことから、家族に読んでもらうという相手や目的意識をもって作文を書くことや、読んだ感想を書いてもらい交流するという活動を通して、自分の考えや気持ちを書いて伝え合う楽しさや喜びを味わい、さらに伝え合おうという関心・意欲・態度が高められたと考える。

2 具体仮説②の検証

生活科で書いて表現する場において、国語科で学んだ言語能力の活用を図る関連指導を工夫することによって、自分の考えや気持ちを適切に表現する力を伸ばすことができるであろう。

具体仮説②では、「自分の気持ちや考えを適切に表現する力」について、「生活科絵日記」の記述と適切に表現する力についての分析から検証する。

(1) 「生活科絵日記」の記述から

入門期の作文指導として、観察記録文「あさがお絵日記」に取り組んだ。

基本のパターンとして、書き出しを「あさがおの〇〇が～した。」、本文を観察の視点（5感の活用）・比喻表現・擬音語・擬態語等を用いた文、終わりを自分の気持ち等の3段落構成で指導した（図17）。

その結果、4月頃は、3段落構成の簡単な文章を1文平均15文字程度、文章全体では平均43字で書いていた。12月頃になると、1文平均30文字程度、文章全体では平均約146文字程度で書けるようになった（図19）。

図18のように、ほとんどの児童が、自分で観察の視点を決めたり、比喻表現だけでなく、客観的に「〇センチメートル」と表現するようになった。これは、国語科の指導内容と関連づけた系統的な指導が効果的であったからだと考える。

(2) 適切に表現する力の到達率から

図21は、「生活科絵日記」について適切に表現する力を指導者が国語科の「書くこと」の指導事項を考慮し6つの観点に絞り評価規準を設定し、その到達度を示したグラフである。

その結果、ほとんど児童が「はじめ・中・終わり」の文章構成で書けていた。「題名・書き出しの工夫」や「終わり」にまとめとして自分の感想や気持ち等を約90%の児童が書けていた。また、文章構成の「中」では「大きさ」「色」「形」等いろいろな視点で観察したことを書いたり、自分の気付きを「12センチメートル」と客観的に示したり、「だんだん～」「〇〇みたいで、〇〇できそう」等、比喻等の表現を用いて、自分の気づきをより具体的に書くことができていた。このことは、国語科の「書くこと」の指導内容と関連づけた指導をしたことで、効果的に言語能力の活用と定着が図られたためだと考える。

しかし、12月に入ってもまだ、1文1段落で書いていたり、詳しく書こうとするあまり主語と述語のねじれた文を書く児童が出てきた。また、読点を「私たちは、えんぴつみたいで、字が、かけそうです。」と助詞の後に打つ癖がついてしまっている児童がいる。

1文の適切な長さや句読点の打ち方、段落の構成等

あさがおのめが
でました
ぶりっちしてる
みたいじじいろ
だからすご
かった。

図17 4月頃「生活科絵日記」の記述例

学校でうらえているネギ
が大きくないました。
大きさは十二センチメ
ートルです。
色は、きみじりと、先がみ
じりで、だんだんきみじりでも
かたちは、えんぴつ
の先みた
いで、字がかけそ
うです。
ゆりかんのめぎよりいちば
ん大きくなって、早くた
げます。

図18 12月頃の「生活科絵日記」の記述例

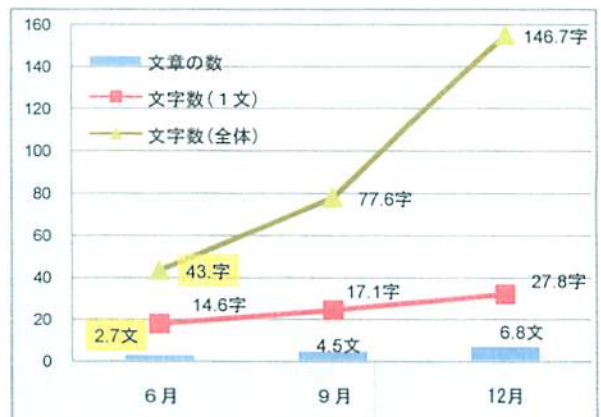


図19 「生活科絵日記」の文字数・段落数等(字・文)

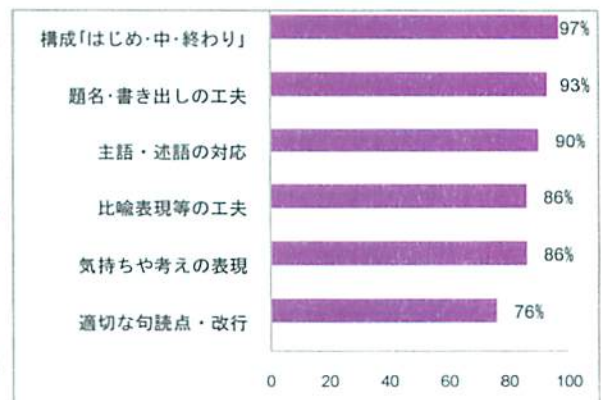


図20 適切に表現する力の到達率 [N=29]

が、今後の指導課題である。

Ⅷ 研究の成果・課題・対応策

1 成果

- 「まねっこ作文」を書きながら、教師とともに教材文の観察の視点やメモの書き方、基本文型等を読み取ったことによって、説明的文章（観察記録文）のメモや文の記述の仕方や文章構成等の習得が図られた。
- 「読むこと」と関連付けながら、メモや文を書かせたことによって、自分の知らせたいことを主述の整った文で詳しく書くことができた。
- 相手や目的意識を明確にして作文を書き、読んだ感想をもらう等の交流活動を位置づけた単元を構成することによって、児童が自分の考えや気持ちを書いて伝え合う楽しさや喜びを感じ、さらに伝え合おうという関心・意欲・態度が養われた。
- 生活科の表現活動「生活科絵日記」の指導で、国語科の「書くこと」の指導内容と関連づけ、系統的に指導したことによって、言語能力の活用と定着が図られた。

2 課題

- ◇ペアやグループによる交流活動等における学び合いを通して、読みや表現を高める授業のあり方
- ◇より適切に表現する力を高めるための、表現材料の提示や図書資料等の効果的な活用
- ◇生活科や他教科・領域等の指導や活動との関連指導の充実

3 対応策

- ◆単元指導計画におけるペアやグループ交流活動・ペアやグループ交流の仕方についての指導の位置づけ
- ◆図書館司書と連携した、年間指導計画への図書館利活用の位置づけ
- ◆第1学年の表現活動における、国語科の「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」と他教科・領域を関連づけた系統的な年間指導計画の作成と実施

参考文献

・白石範孝	『単元構成の工夫で活用力を育てる』	東洋館出版社	2010年
・須田 実	『読解表現力強化プログラム』	明治図書	2009年
・文部科学省	『小学校学習指導要領解説 国語編』	文部科学省	2008年
・文部科学省	『小学校学習指導要領解説 生活科編』	文部科学省	2008年
・白石範孝	『活用力を育てる説明文の指導』	東洋館出版社	2008年
・長崎伸仁	『表現力を鍛える説明文の授業』	明治図書	2008年
・大森修	『グレーソンの子どもに対応した作文ワーク 初級編』	学事出版株式会社	2007年
・田村学	『生活科における言葉の重視と体験の充実』『初等教育資料』	東洋館出版社	2007年
・藤田伸一	『論理的思考力を育てる説明文の授業』	学事出版株式会社	2007年
・文部科学省	『読解力向上プログラム』	文部科学省	2005年